

御木宏美 *Hiromi Miki*

す  
ず  
す

野  
蛮  
な  
せ  
し

illustration  
新田祐克



左から：SUGURU  
ISAMU  
TASUKU  
YUKARI



すごく野蛮なセレブ

《立読み版》

御木 宏美

イラスト 新田 祐克

総資産額 20兆円の大富豪

# 玄川家の血を継ぐ6人



**祐** (たすく)

height 164cm age 16

血筋だけでいえば玄川家の正当な跡取りの直系。全員に可愛がられる無邪気な天使 (のハズ…)



**優** (すぐる)

height 175cm age 25

唯一の女性だが、多分一番クールでクレバー。雄と婚約をしているが、恋愛ではなさそう。



**悠** (はるか)

height 188cm age 24

オネエ言葉を巧み(?)に使いわけるゴージャスな美青年。邪険にされても雄だけを一途に激ラブ。



**雄** (たけし)

height 184cm age 25

次期総帥候補ナンバー1。6人の中ではリーダー的存在。悠の事は嫌いじゃない、むしろ—?



**由** (ゆかり)

height 196cm age 24

鋼鉄の筋肉を持つ大男。趣味は料理とビスケット(笑)。オカマとホモを毛嫌いしている。



**勇** (いさむ)

height 180cm age 22

ハッキングの達人。進んで祐のお守り役を務める。悠と由の口喧嘩を面白がっている。

※二人の初めて演敵の「野蛮なセレブ」もぜひ読んでね。書店注文もしくはハイランド通販(帯のハイランドHPアドレス)でどうぞ

うららかに晴れた新年二日。

神楽坂にほど近い閑静な住宅街の一角に、黒塗りの高級車が列を成して停まっていた。

神楽坂とはその名が示すとおり、外堀通りの神楽坂下交差点から地下鉄神楽坂駅を結ぶ坂道である。江戸の中期から毘沙門天で親しまれる善国寺の門前町として栄え、明治以降は料亭が左右に軒を並べ、花街として華やかな賑わいを見せた。現在はレンガ敷きの歩道沿いにカフェやレストランなど流行りの店が並ぶ通りとなったが、路地をに入ればまだ老舗の料亭も点在し、打ち水を施した石畳や木の引き戸などが昔ながらの日本情緒を漂わせている。

この神楽坂から市ヶ谷にかけての山の手は、知る人ぞ知る高級住宅街である。通りの両側には緑濃い生垣や高い塀が長々と続き、昼間でも静寂に満ちている。

そのなかに源氏塀で囲まれたひととき大きな屋敷があった。塀の長さは東西が百五十メートル、南北に六十メートル。高さは三メートルを超え、瓦葺かわらぶきの大門の左右には二メートルはある立派な門松が飾られている。

車列の先頭はその門の前に停まっていた。

なから同じような高級車がゆつくりと出てきた。入れ替わりに先頭の一台が入っていく。

門の内側は手入れの行き届いた見事な前栽を左右に配したアプローチで、車寄せを設けた玄関まで十メートルあまり。建物は二階建ての大きな純和風建築である。

車寄せには先に入った一台が停まっていた。その車が出ると、次の車が静かに滑り込む。停まると同時に運転手が車から降り、作務衣姿の下足番と一緒に後部のドアを開けた。スーツや和服で盛装した老若男女が降り立つ。下足番が彼らを玄関へ導く。

主を降ろした車は車寄せを離れ、再び大門をくぐって屋敷を出る。

道をはさんだ向かいに全長五メートルを超える高級車が楽に入る奥行きを持った駐車場があった。

下は玉砂利が敷き詰められている。門を出た車は次々とその駐車場に並んだ。その数は二十台を超え、まだ十台あまりが門の前で待っている。駐車場はそれらすべてを収納してもまだ空地が残る。

並んだ車はどれもフロントを屋敷に向け、ナンバープレートの上辺りに注連飾りをつけている。

磨きぬかれた黒塗りの高級車が横一線にずらりと並んだ光景は圧巻である。

大門の正面から少し右手に行った駐車場の奥には、情緒ある周囲の景観を損なわぬように配慮されたデザインの鉄筋コンクリート製平屋の建物があった。こちらの建物は運転手の待合所で、ここも出

入り口には注連飾りがつけられている。なかにはソファとテレビがあり、今日は特別におせち料理と雑煮がふるまわれている。

駐車場も源氏塀に囲まれた広大な屋敷の一部である。表札に記された名は玄川<sup>くろかわ</sup>。

総敷地面積三千坪。個人の住居としては東京二十三区内随一の広さを誇るこの屋敷の所有者玄川は総資産一兆円、世界の長者番付のなかでも王族をのぞけば十本の指に入る大富豪である。

おおの  
大野が唸った。

「想像を絶するとはこのことだ……」

たけし はるか  
案内役で相手をしていた雄と悠は唇の端を緩めた。

大野は四、五十代のサラリーマンをターゲットに公称百二十万部を売り上げる週刊誌『週刊ジャーナル』の編集長をしている。年は四十代後半。身長は百七十センチ前後。運動不足と高カロリーとアルコールによる典型的な中年太りで、職業柄、好奇心の塊のような男である。その大野を稔らせた光景。

盛装した百人近い老若男女が広間に集っていた。広間は百五十畳ほどの広さがあり、天井が高く、そこには黒い漆塗りに四季の花を描いた華麗な天井絵が格子状にはめ込まれている。正面には直径が一メートルほどある二段重ねの大きな鏡餅が飾ってあった。その横には高さ三メートルはある見事な枝振りの松を主体とした正月の生け花が、九谷焼の大きな花瓶に生けてある。反対側の壁の前には白いクロスがかけられた長いテーブルがあり、料理と酒が並んでいた。

年配の女性は大半が訪問着、男性は紋付袴とスーツが半々で、子供たちも男の子はブレザーにネクタイ、女の子は可愛らしく清楚なデザインのワンピース。朗らかな話し声に琴の音が混じる。

広間は錦鯉が泳ぐ池水の周りに築山を配した雅趣豊かな庭園に面していた。両者の間を仕切るの床から天井までのガラスで、広間からは庭園が一望できる。今日は天候もよく、庭園には赤い毛氈もうせんを敷いた腰掛も用意されていた。まだ小さな子供たちが数人、池のほとりで笑い声を上げながら追いかけっこをしている。

大野がゆっくりと首を横に振った。

「これが毎年恒例、一族だけのささやかな新年会だって？」



「ささやかだろ」

バカラ社製のシャンパングラスを手に悠が笑みを含みながら答えた。隣で雄も微笑っている。大野は顔をしかめた。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

すごく野蛮なセレブ

《立読み版》

発行日 2011年7月21日

著者名 御木 宏美

イラスト 新田 祐克

発行所 【MILK-CROWN】

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Hiromi Miki 2011

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。